教育目標
自主
他敬　自愛
創造

内野中だより

内野中ブログ
ＱＲコード

新潟市立内野中学校だより　令和６年１２月１７日（火）発行第８号　　新潟市西区内野西１－１０－１
電話　025－262－3161　生徒数　１年生 288 名　２年生 255 名　３年生 255 名　計７９８名（１２月１７日現在）

～修学旅行～自分ごととして『防災・減災を考える』探究の旅

11 月 20 日(水)から 2 泊 3 日の日程で、２年生が東北方面へ修学旅行に行ってきました。3 日間、晴天に恵まれ、最後まで雨に見舞われることなく、無事帰路に就くことができました。沢山の方のご支援の元、修学旅行を完遂できましたこと、心より感謝申し上げます。

旅の途中、万が一、地震があったら…体調不良の生徒が出てしまったら…ということも考慮しつつ、職員一同、緊張と責任を感じつつの修学旅行でしたが、予定通り出発できたこと。全行程を予定通り完遂できたこと。そして何より、全員が怪我無く無事に帰ってくることができたことに安堵しています。

～1 日目　仙台市内、東北大学、企業訪問研修！！～

＜まだ眠い…朝のバス内＞

＜青葉城 with 伊達政宗公像前にて＞

＜広大な東北大学キャンパス探検！＞

＜東北大学理学部にて特別講義受講＞

＜震災復興を遂げた企業訪問＞

＜南三陸ホテル観洋での食事の様子＞

バスで仙台へ移動後、
青葉城→東北大学→企業訪問→南三陸ホテル観洋というスケジュールで学んで参りました。

東北大学では、理学部 武藤潤教授より、地震における断層についての講義を大講堂にて受講し、地震発生のメカニズムについて理解を深めました。また、東北大の広大なキャンパス内を歩いたり、大学 3 年生の方から大学生活を紹介していただいたり、大学生 Life を少しだけ体感しました。

仙台市内の企業訪問では、企業担当者様より、『震災時の会社としての地域貢献』について、どのように震災後、復興に向けて働きかけたのかなどを伺うことができました。

～2日目　陸前高田市・気仙沼市にて震災学習～

東日本大震災による津波で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市を訪れました。東日本大震災津波伝承館（いわて TSUNAMI メモリアル）や、奇跡の一本松など、津波被害の大きさ、いざ震災に見舞われた時、自身がどのように行動すべきかを学びました。

＜地震と津波に関する説明＞　＜陸前高田市の献花台と太平洋の眺望＞＜気仙沼市の語り部の方々からの説明＞

東日本大震災津波最大到達ラインに桜を植樹する活動に今年も参加しました！！

皆さんは「桜ライン 311」という NPO 法人をご存じでしょうか？東日本大震災を教訓とし、津波の怖さ、災害に対する備えの重要性を先の世代に伝えていくことを目的として、東日本大震災被災者たちが立ち上げた組織です。この理念を継承し、昨年より内野中学校も植樹へ参加しています。津波の最大到達地点に桜を植樹し、津波の記憶を伝え残すこの活動の一翼を担えたこと、大変誇りに感じています。

＜全員の手による桜植樹＞

＜桜ライン 311 代表　岡本　翔馬さん＞

『東日本大震災の記憶と人生の転換点』　教諭：石川龍太郎

私は中学時代を仙台で過ごし、東日本大震災による津波で当時所属していたラグビークラブの友人を亡くしました。中学１年生ながらに、今の生活が当たり前ではないこと、生き残った自分は、友人をはじめ亡くなった人たちの分まで、精一杯生きていかなければならないとの思いをもちました。この思いはその後の人生においても消えることなく、大学での卒業論文では、江戸時代に発生した『安政地震による津波被害と、小田原の復興』というテーマで津波被害を最小限に抑えるにはどうすべきか。そして、その後の小田原の復興プロセスについての研究を重ねました。

就職活動では、人道支援という観点から、３か月間の仙台での避難生活の中で多くの災害支援物資を提供してくれた「山崎製パン」に大学卒業後は就職しました。これまでの自分の人生を振り返ると、東日本大震災での経験が私の人生の指針を決める上での起点となっていました。

そして今、紆余曲折を経て新潟市の教員となった自分が、再び震災について生徒と考えていく時間をいただけることに深く感謝し、東北地域への震災学習に臨んでいきたいと思います。

『今後へ向けて…』　修学旅行担当者教諭：奥田　凱人

２年生は「防災・減災」をテーマに修学旅行へ行って参りました。実際に被災された語り部の方からその壮絶な体験を聞くことで、これまで事前学習で学んだ知識と結びつけるだけではなく、震災の恐ろしさを肌で感じました。また、元日には私たちの住む新潟市西区にも大きな被害をもたらした能登半島沖地震の記憶も新しい中、貴重な経験ができました。今後はこの学びを「自分事」として捉え、内野地区の「防災・減災」へどのように還元していくか、考えていきたいと思います。